

2月の安全運転のポイント 平成2年2月号

車は前に進むだけではありません。車庫や駐車場などではバックしなければならぬこともよくあります。しかし、後方は運転席から見えない死角も多く、安全確認も不十分になりがちです。そのため駐車車両などと接触したり、状況によっては後方の歩行者をはねてしまうといった事故も発生します。後方が見えない時は、下車して確認するのが原則ですが、その他の場合など、安全にバックするためのポイントをまとめてみましょう。

Point 1 歩く速度でバックする

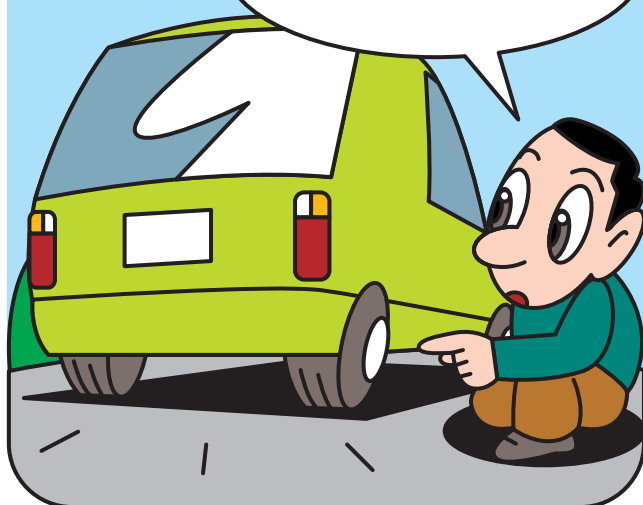
バックは、歩くくらいの速度で行います。AT車の場合は、クリープ現象^{*}を利用してゆっくりとバックするのがよいでしょう。

また、バックギアに入れてからすぐにバックを開始するのではなく、ひと呼吸おいてからバックしましょう。

*クリープ現象とは、エンジンがかかっているときに、ニュートラルやパーキング以外のDレンジやRレンジに入れると、ひとりでに車が少し動きだす現象をいいます。



安全確認



Point 2 ミラーだけに頼らない

バックするとき、ミラーだけでは十分な後方の確認はできませんから、必ず振り向いて自分の目で直接確認するようにします。

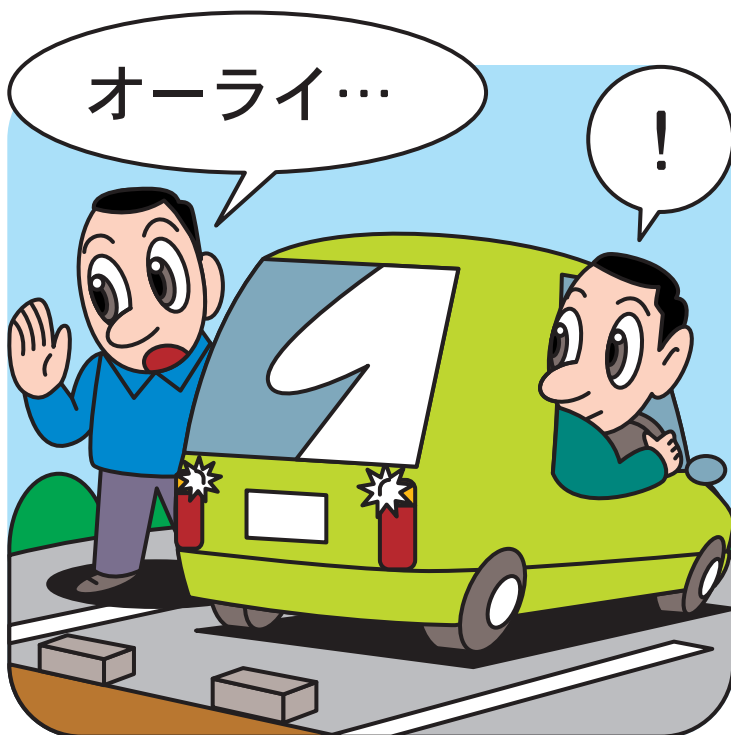
また、さらなる安全確認の観点で、窓を開けて周囲の音を聞いたり、一度下車して直接自分の目で後方の確認をすることをおすすめします。

(特に、保育園や幼稚園など周囲に幼児がいるおそれのある場所では、下車による確認を必ず実施してください。)

Point 3 無理なバックはしない

駐車車両の間にバックして駐車しようとするときなど、このままバックすると接触するかもしれないと感じたときには、決して無理をせずバックを中止して、もう一度やり直します。

また、バックするとき、車の前輪は後輪よりも外側にふくらみますから、側方の駐車車両との間隔に十分注意しましょう。



Point 4 同乗者がいるときは誘導してもらう

後方には死角が多いので、同乗者がいるときには誘導してもらうのがよいでしょう。ただし、誘導してもらう場合でも、それに頼り切るのではなく、自分の目で後方を確認することを忘れないようにしましょう。

なお、万一に備えて、誘導する人は車の進行方向から少し外れた位置に立って誘導するようにします。

「ご相談・お申込先」